

石岡市推進委員会 委員長賞

「ある日の出来事」

府中小学校 五年 加藤 愛智（かとう いくし）

ぼくは、夏休みに家族で大阪へ旅行に行きました。いつも旅行するときには車を使って行きますが、大阪は遠いので、電車を使って行きました。ぼくはあまり電車に乗ったことがなかったのですが、とてもわくわくしていました。大きな荷物をかかえて新幹線に乗りこみ駅で買った駅弁を食べてとても楽しい時間でした。

大阪の駅で地下鉄に乗り変えた時のことです。

ぼくたち家族はほかの乗客と比べて、荷物が大きく少しめいわくをかけている気がしました。なるべくじやまにならないようにすみの方に移動しようとした時です。席にすわっていた男の人がとつぜん立って、ぼくのおばあちゃんの前へ近づいてきました。びっくりしているとその人はなにやら

おばあちゃんに話しかけています。その人はおばあちゃんに席をゆずってくれたのです。大きな荷物を持っていたおばあちゃんは、

「すみません、ありがとうございます。」

と言って、少しほっとしたような顔で席にすわりました。

その様子を見てぼくはおどろきました。知らない人に自分がすわっている席をゆずることを見たことがなかったからです。

この事をお母さんに話すと、ほかにもお年よりだけでなく小さい子どもや体の不自由な人にも席をゆずり合うということを教えてくださいました。ぼくは心の中で、席をゆずってくれた人はすごいなあと思いました。おばあちゃんに席をゆずってくれた人はど

んな気持ちだったのかなあ。その人はきつと優しい事をしていい気持ちだったと思います。相手の人が喜ぶ事をするのは、自分もいい気持ちになってうれしくなるからです。ぼくも学校で友達と転んだ時に、保健室へ連れて行ってあげた事があります。その時友達はとてもいたくて困っていたので自然と手助けしたのですが、後から友達に、

「あの時はありがとう。助かったよ。」と言われて、とてもうれしかったです。人に親切にすると自分もいい気持ちになるということを初めて知ったしゅん間でした。でも、知らない人にはなかなか自分から声をかけられませんが、

これまでぼくは人見知りで、初めて会う人には自分から話しかけること

が苦手でした。理由は、はずかしいからです。相手の人にへんだなあと思われたらいやだなあとか、ばかにされたらいやだなあと思うと、声をかける事ができなくなってしまわなうのです。でも、あの時の男の人の思い出すと、勇気が出てくる気がします。だからぼくは、困っている人を見つけたら、勇気を出して自分から声をかけようと思います。それにはまず、自分からあいさつをすることです。先生や友達、家族、近所の人たちなど、ぼくから先にあいさつをするよう心がけたいと思っています。そうすればきっと、いざというときに自分から声をかけて行動することができると考えたからです。

相手の気持ちを考えるのはとても大切なことだとぼくは考えます。でも周りの人にどう思われるかを考え過ぎると、心の眼鏡が曇ってしまうと思います。周りの人にどう思われるかよりも、自分の心の声に耳をかたむけて良いと思う事をしたいです。それは、勇気の要ることだけれど、あの時の男の人がゆずってくれたことと、ほっとしたおばあちゃんの顔を思い出して、

一歩ふみ出したいと思います。これがぼくが考えた、ぼくにできる社会を明るくする運動です。

